

ところが、伝統的な木造建築の並ぶ住宅地に整備されると、強い違和感を与えます。(写真6)

これは、朱色が、背景より前に飛び出してくるように見える「進出色」であり、実際より大きく見える「膨張色」であること、高彩度で自己主張が強いこと、地域で慣れ親しんだ色でないことに原因があります。



写真 6 多賀絵馬通りの現況

これを回避した例が岐阜県高山市にあります。秋の高山祭で11台のからくり屋台が集合する桜山八幡宮表参道には、木製の灯ろうが道の両側に整備され、金属製の竿部は生垣によって覆われています。

木製の灯ろうは、周囲の建物と同じ素材、同系色の色彩であるため、まちなみに美しく調和し、違和感を



写真 7 桜山八幡宮表参道

与えません。仮に木製でも朱色に着色されていれば、周辺から浮き上がり、強い違和感を生じたことでしょう。

高山市の事例は、道路や灯ろうなどを整備する前に、周辺がどのような環境にあるのか、今後どう変化していくのが地域にとってよいのかという「まちづくりに関する住民の合意」を形成することが、全体として統一感のある「よい景観」を作る上で最も大切であることを示しています。

つまり、「よい景観」の第1歩は、一人ひとりの心にうかぶ「よいまち」のイメージを市民、事業者、行政、大学等がみんなで語り合い、表現し、共有していく過程から始まるのです。

これらを踏まえて、今日では多くの自治体が、公共事業に適用する景観形成指針を作成して、「場所の持つ地域特性を十分考慮し、違和感を与えないよう周辺景観との調和を図るとともに、魅力ある景観を創造する(和歌山県景観形成指針)」としています。多賀町でも議論が深まることを期待します。

よい景観の価値と経済効果

「よい景観」は、①地域の人々に自分のまちに対する誇りや愛着を醸し出し、②生活環境の住みよさの向上をもたらす、③まちの魅力や活力の向上をもたらします。また、「よい景観」が長期的に大きな経済効果をもたらす事例も豊富にあります。経済学では、①よい景観は誰にでも恩恵をもたらす ②多くの人が同時に利用してもその価値は不変 ③暮らしが豊かになるにつれて、評価が高まり、効用が増す ④壊してしまうと二度と元の姿に戻すことができない ⑤市民や事業者と行政が協働しなければ創ることができない として経済効果の研究が進んでいます。

絵馬通りには、社家をはじめとして優れた建物が多くあり、これらを生かした景観づくりには、大きな可能性があるのです。(文責 堀部 栄次)

NPO法人 彦根景観フォーラム 会員募集中

彦根景観フォーラムは、まちの景観づくりを楽しむNPOです。大学教員、建築家、市民、商店主、公務員などが集まり、知恵と力を合わせて活動しています。まずは、定例会に参加してみてください。

- **ブログ** <http://hikone-keikan.seesaa.net/>
- **定例会** 毎月第3金曜日 午後7時～9時 滋賀大学陵水会館 誰でも自由に参加できます。
- **お問合せ** : 彦根景観フォーラム事務局 TEL 080-1416-5968 FAX 0749-27-1431
E-mail: hikonekeikan@hotmail.com まで



きらっと彦根 vol.48

彦根の魅力 ★ 再発見

彦根まちづくり誌 2017年8月20日 通巻48号 編集/発行 NPO 法人 彦根景観フォーラム

彦根景観フォーラム総会 開催

NPO法人彦根景観フォーラムは、平成29年7月1日(土)12:30分より多賀町一円の多賀里の駅一圓屋敷で平成29年度通常総会を開催しました。

濱崎一志理事長(滋賀県立大学教授)のあいさつに続き、平成28年度事業報告と決算および平成29年度事業計画および予算が審議され、承認されました。

平成28年度の活動を振り返ってみますと、多賀里の駅一圓屋敷の「野菜市&集い」を87回から97回まで開催。10月には多賀町栗栖でかやぶき屋根の修繕ワークショップを実施。3月には多賀大社前の絵馬通りの道路整備に伴うまちなみ景観の保全と活用についてワークショップを実施し、門前町のまちづくりについて多賀町長に提案しました。

彦根市芹橋二丁目の足軽屋敷・辻番所の「足軽辻番所サロン」も64回から70回まで開催。同じ場所で「文化遺産を活かしたまちづくり研究会」を4回開催し、「芹橋二丁目まちづくり憲章」の実現に向けて米原市柏原宿の街なみ環境整備事業の視察や彦根景観シンポジウムの開催を行いました。シンポジウムでは、「コミュニティデザインで進める城下町のまちづくり」をテーマに、建築家の松井郁夫さんから城下町越前大野、郡上八幡のまちづくりをご講演いただき、芹橋を「住みたくなるまち」にするワークショップを



施しました。さらに、結果を受けて「住民と行政の連携」について彦根市と協議しまし

た。

ひこね街の駅「寺子屋力石」、「戦國丸」、「通信舎」などがある彦根市河原町芹町地区では、平成28年7月に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、11月20日に記念シンポジウムを開催しました。文化庁の下関調査官や五個荘金堂まちなみ保存会の西村さんに講演いただき、今後について議論しました。

平成29年度は、河原町芹町重伝建地区の整備を支援しシンポジウムを開催すること、河原町芹町地区の取り組みをまとめた冊子の発行を検討すること、多賀里の駅の経営的自立を研究し結論を出すことが決められました。さらに、会員制度の再検討、市民が楽しく参加できる景観コンテストの検討、景観と調和した建物の修景などの専門的なアドバイスをする景観整備機構への移行の検討が提案されました。

足軽辻番所サロン

彦根城の石垣普請を担った足軽の人々

平成29年7月23日(日)午前10時30分より、彦根市芹橋二丁目の辻番所足軽屋敷・旧磯島家住宅で、彦根城博物館学芸員の渡辺恒一さんが、「彦根城の石垣普請を担った足軽の人々」と題して彦根市立図書館が所蔵する史料にもとづき、石垣修理に関わった関係者と足軽の役割を具体的に個人名まで探求して紹介されました。

足軽屋敷は、約40名の聴衆で満員でした。



特集 多賀絵馬通りの景観と色彩を考える